

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月19日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3770800146
法人名	株式会社せとうち福祉サービス
事業所名	グループホームせとうち
所在地	香川県三豊市三野町吉津甲605番地2 (電話) 0875-72-3992

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成19年10月26日	評価決定日	平成19年12月19日

## 【情報提供票より】(19年9月14日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 18年 3月 15日
ユニット数	1ユニット 利用定員数計 9人
職員数	9人 常勤 7人、非常勤 2人、常勤換算 7.5人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り 1階建ての1階部分
------	-------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,500円	その他の経費(月額)	12,600円	
敷金	有( )円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 1,150円				

### (4) 利用者の概要(9月13日現在)

利用者人数	8名	男性	2名	女性	6名
要介護1	1名	要介護2	4名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 87.8歳	最低	78歳	最高	99歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	嶋田内科、小野歯科
---------	-----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム全体に清潔が保たれ、家庭的な落ち着いた雰囲気である。職員集団も開設当初から変わりなく定着しているため、入居者は安心して、毎日をゆったりと過ごしている。玄関を出るとかなりの交通量があるが、職員に見守られ、自由に出たり入ったり、外の空気を満喫している。また、介護計画や個人記録は、あらゆる面から丁寧によく書かれている。全員参加のミーティングも確保され、介護職員の質の向上にもつながっている。地域の人と仲良くするという運営理念を、常に意識して取り組んでいるので、今後に期待がもてる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の主な改善課題であった、地域に向けての積極的な働きかけをすることに対しては、せとうち便りを作成し、家族や関係機関に配布したり、また、デイサービスとの交流を通して、地域の人と仲良くすることなど、年間を通して、意識して改善に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員一人ひとりが自己評価に取り組み、意見交換して全体でまとめており、自己評価に対する意義の理解ができ、前向きに取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2か月に1回定期的に開催し、ホームの運営状況や入居者の状況報告等の詳しい報告や、出席者との活発な意見交換ができています。また、年間行事計画を詳しくとか、居室に写真を飾ってはどうか等の具体的な提案も出てきている。提案されたことは取り組みに活かしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族への対応は、せとうち便りを作成し、各個人の様子を詳しく家族に報告したり、面会時にいろいろな報告を丁寧に行っている。また、年1回の家族会は多くの家族の参加がある。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の行事には積極的に参加している。買い物、散髪やパーマ等は、地域の店へ出かける試みをしている。また、自治会に参加できるかも聞いてみたところ、難しいという意見をもらったようであり、地域との連携は常に意識して取り組んでいる。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	一人ひとりがその人らしく暮らせ、地域の人と仲良く、明るく元気に過ごすことを理念にあげ、実現できるよう努力している。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実践に向けて、管理者と職員は一緒に取り組んでいる。理念を実践させるものは、サービスの質の向上と職員の質の向上だと捉えて、努力している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	祭りや寺の行事等には積極的に参加している。自治会等にも参加できるか打診してみる等、積極的な働きかけが見られる。買い物、散髪、パーマ等は、できる限り、地域に出かけていくよう努力している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、まず一人ひとりが行い、意見交換して、全体でまとめたので、自己評価の意義と活用は理解できている。前年度の改善点も努力している。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、活発な意見交換ができています。具体的な提案も出ており、できるものはすぐ取り組んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議に参加してもらい、現状を知ってもらう等、市町担当者とは、常に連絡を密にしている。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>せとうち便りに写真などを入れて、ホームの様子や個人の様子がよく分かるように、各家族に向けて伝えている。面会時を捉えて、個別の報告はなされている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>年1回、家族会を行っている。30人前後の参加があり、食事会をして、意見交換や交流をしている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の定着もよく、関連施設との異動はあるが、最小限に抑え、利用者との馴染み関係を保っている。</p>		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月1回の全員参加のミーティングを確保して、その中で研修が行われている。また、資格をとることを奨励し、全員が資格を取得している。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>現段階では、各種の講習会や団体の交流会などに参加して、同業者との交流を図っている。今後、相互訪問などの交流や研修を計画していくことを検討している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	緊急の入居以外は、家庭訪問や入院先の病院への訪問など、家族と相談しながら行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活はゆっくり見守りながら、レクリエーションは一緒に楽しみ、ともに暮らしている関係づくりを心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何がしたいか、何が食べたいか分かりづらいこともあるが、根気よく声かけすることで、思いや意向を把握する努力をしている。時間の許す限り、何気ない世間話をするよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の面会時を捉えて、家族からの意見を聞き、ミーティングでは職員間の意見を聞き、みんなで話し合っ、介護計画を立てており、詳しく丁寧な介護計画が立てられている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとの見直しと状況の変化に応じて、随時見直されている。丁寧な介護計画ができています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスの施設へは自由に行き来をし、特殊入浴などを利用している。ボランティアの演芸訪問には一緒に参加するなど、事業所の持っている多機能性を十分活かした支援ができています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人の希望のかかりつけ医の、受診支援を行っている。病院受診は多いが、職員が対応して、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の意向については聞いており、できる限りホームで見たいという思いはあるが、事業所としての方針は、家族や職員の共通理解には至っていない。	○	今後、重度化や終末期の利用者は、増えていくことが予想されるので、事業所の方針を明確にし、家族や職員と方針を共有することが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティング等で、プライバシーについての職員の意識の向上を図り、また、職員は自らプライバシーを尊重した関わりができていますか、振り返るよう努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り、その人の持てる能力を活かすように、ゆっくり待つことに努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は、デイサービスで一括調理したものを利用しているが、日常的には、朝食と夕食をグループホームで作っている。日曜日は、全食グループホームで利用者と調理し、利用者と職員と一緒に食事の準備や片付けをするよう心がけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、毎日午前と午後の時間帯ででき、できるだけ本人の希望する時間に入っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの持てる能力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしなどを支援している。	○	努力しているので、利用者一人ひとりのできる役割や楽しみごとを丁寧に掘り下げていき、個別処遇の充実を図るなど、今後の取り組みに期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材を買いに行く職員と一緒に、交替で買物に出かけている。また、デイサービスへは自由に出かけたり、園内の散歩、畑で草取りをする等、できるだけ戸外に出られるように支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関と裏口は段差もなく、すぐ外に出られ、駐車場に面しているが、玄関先の椅子に大勢が座り、外の空気や景色を楽しんでいる。鍵はかけず、職員の見守りに支えられている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年1回実施している。運営推進会議等で、地域の方の協力が得られるよう働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取や水分補給等は、気をつけて支援しており、記録なども丁寧である。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体に清掃が行き届いており、清潔が保たれている。食堂や共有空間は、居心地の良いものとなっている。	○	トイレが2か所あるが、1か所が戸の開閉具合が悪く、実際は1か所しか使用できていないので、トイレは2か所使用できるよう、早急に修理等の取り組みが望まれる。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は清潔で、落ち着いた雰囲気がある。個人の持ち込みは多くはないが、徐々にその人らしい雰囲気が出るようになるよう工夫している。		